

令和2年度第2回全国健康保険協会秋田支部評議会議事録

開催日時：令和2年10月19日（月）10：30～12：00

開催場所：アキタパークホテル 2階 ゴールデン

出席者：松渕評議員（議長）、金子評議員、佐野評議員、小林評議員、

舘岡評議員、栗盛評議員、近藤評議員（代表別・50音順）

加藤支部長、河上部長、青木グループ長、佐藤グループ長、二田グループ長、

安田グループ長、沼倉主任、高橋主任、澤ロスタッフ（記）

本部 杉浦財政・支部グループ長（リモート参加）

議事録署名人：栗盛評議員、小林評議員（50音順）

■ 議事事項

1. 令和3年度平均保険料率について

■ 質疑応答、意見交換等

（平均保険料率について）

【被保険者代表】

民間の保険と異なり、制度の長期安定性が重要であると考えます。新型コロナウイルス感染症の影響が未知数であるため現行の料率を維持すべきと考えます。

【事業主代表】

企業としては、ある程度安定した支出が見込まれていた方がやりやすい。そういう意味では、中長期的な展望で保険料率を決めることが望ましい。しかし、企業としては現状の10%が負担の限界であることから、給付を減らす努力を保険者としてやっていてもらいたい。

【被保険者代表】

保険料率が急激に引き上がるとなれば不満の声が挙がると考えられる。企業も個人も10%が負担の限界であると考えます。

【事業主代表】

加入者が安心して医療機関へ受診できるよう、安定した財政運営を行うには、平均保険料率10%を維持することはやむを得ないと考えます。

ただし、準備金が積みあがっていることについては丁寧な説明が必要ではないかと考えます。

【事務局】

協会財政の赤字構造や、不透明な経済状況を鑑みれば、中長期的な視点に立った財政運営が必要であると考えることから、引き続き丁寧に説明してまいります。

【被保険者代表】

新型コロナウイルス感染症の影響により今後の見通しが不透明であるため、中長期的に考えれば平均保険料率10%を維持することが望ましいと考えます。

【学識経験者】

今年度の算定基礎届による標準報酬や賞与への影響はどの程度あるか。

【事務局】

詳細なデータを持ち合わせていないため現時点では不明である。

【学識経験者】

保険料率の変更時期について異論はない。

(インセンティブ制度について)

【被保険者代表】

令和元年度実績については令和 2 年 3 月のみの限定的な影響であるため、事務局より提示された案の通り実施すべきと考える。

【事業主代表】

それぞれの評価項目について影響を考慮しての案となっており、原案通りで良いと考える。

【事業主代表】

新型コロナウイルスの影響が出る部分、出ない部分をよく考慮した内容となっており、異論はない。

【被保険者代表】

先の発言にあったように、令和元年度実績への影響は限定的であり、令和 3 年度保険料率に反映する場合には 0.007%のままで良いと考える。

■ 議事事項

2. 令和 3 年度秋田支部保険者機能強化予算（案）について

■ 質疑応答、意見交換等

【学識経験者】

令和 3 年度は Web を活用した広報に注力しているが、テレビや紙媒体の広報に比べ、どの程度効果があると見込んでいるか。

【事務局】

Web 広告を見る加入者は、興味を持ってクリックをし、情報収集する確率が高いため理解が深まりやすい。また、効果検証をしやすいという側面もあり重点を置いている。引き続き、テレビや紙媒体の広報と組み合わせながらバランスよく実施してまいりたい。

【学識経験者】

5歳～39歳の年代でジェネリック医薬品の使用割合が低いとのことだが、どのような要因があるのか。

【事務局】

年齢によって疾病の構成割合が異なるためと考えられる。0-4歳代ではジェネリック医薬品の使用割合が高い呼吸器系が上位になるため使用割合が高い傾向がある一方、5歳以上では使用割合が低いアレルギー

一系の疾患や外皮用剤が上位となるため使用割合を押し下げている要因とみられる。

【被保険者代表】

今年度実施した Web アンケートの回答結果はどうであったか。

【事務局】

774 件の回答をいただいた。集計結果については、次回の評議会でお示しする。

【学識経験者】

本予算案について本部として期待することはなにか。

【本部 財政・支部グループ】

保険者機能強化予算は評議会でのご意見を取り入れながら、各地域に根ざした取り組み等を進めることで保険者機能を発揮することを目的としている。評議員の皆様には、効果検証を含め、より良い取り組みとなるようご指導をお願いしたい。

【学識経験者】

協会けんぽ主催の集団健診の予算が令和 2 年度と比較して大きく減少している要因はなにか。

【事務局】

今年度は、受付業務を別業者に委託していたが、令和 3 年度からは健診実施機関にて受付業務を担うため減少している。

【事業主代表】

保険者機能強化アクションプラン（第 5 期）保健指導の質の向上の項目について、「アウトカム指標の検討」と記載があり、非常に重要であると考え。アウトカム指標をどのように設定し評価していくのかしっかりと検証してもらいたい。

また、生活習慣を改善するには特定保健指導にプラスして生活改善の実施プログラムが必要である。他の保険者等で成果を挙げている取り組みを共有し、保険者全体での努力をお願いしたい。

■ 議事事項

3. 秋田支部の医療費等データ分析について

■ 質疑応答、意見交換等

【事業主代表】

新型コロナウイルス感染症の影響が出て以降、処方薬の長期化が業界では一般的となっている。極端に影響を受けている診療科では、受診率は低いが高薬剤費が高いという状態がニューノーマルとなり、医療機関のかかり方が変化するのではないかと考える。

【被保険者代表】

ジェネリック医薬品使用割合の指標を数量ベースで示しているのはなぜか。

【事務局】

国で示しているジェネリック医薬品使用割合の目標値 80%は数量ベースで設定されており、協会けんぽで使用する数値についても数量ベースで示している。

【事業主代表】

市町村別の一人当たり医療費が地域によって差がある要因はつかめているか。

【事務局】

地域ごとの医療提供体制の差などが要因であると思われるが具体的にはつかめていない。要因が判明すれば評議会にてお示ししたい。

【学識経験者】

先日、大館・鹿角医療圏で医師の高齢化・開業医の減少等により医師の一人当たり診療時間が減少しているという新聞報道があった。この地域は、本日示されたデータとも共通する点もあり、こういったことも影響しているのではないか。

■次回評議会の開催 令和2年12月開催予定